

情勢報告（令和6年8月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

市場事故ゼロを目指して！

～カラーピーマン部会目慣らし会～



目慣らし会の様子

7月12日、JA高知県れいほく園芸部カラーピーマン部会が土佐町の集出荷場で目慣らし会を開催し、部会員15名が参加しました。

JAから出荷規格や品質の分け方について説明があり、参加者は収穫した果実の大きさ、形状、色彩等を見ながら、どう選別したら良いかを確認しました。

普及所からは、市場事故防止対策と今年発生が多いカメムシ類の対策について説明をしました。参加者からは「カメムシの発生が多く防除に苦慮している」という声がありました。

今後も普及所は、栽培管理技術の向上と市場事故ゼロを目指し、JAと連携して部会活動を支援していきます。

今年の出荷も始まりました

～ミニトマト部会目慣らし会～



高温対策について話し合い

7月18日、れいほく園芸部ミニトマト部会の目慣らし会が行われ、生産者6名が集まりました。会には市場関係者も参加し、ミニトマトの出荷規格が共有されました。市場関係者からは「今年も暑く、他産地でも高温による収量低下が見られ、単価が上がる可能性がある」との話がありました。

普及所からは高温対策についての説明を行いました。多くの生産者は近年、果実の色づき不良などの高温障害に悩まされており、その対策について意見交換を行いました。資材メーカーからも遮熱資材の紹介がありました。

今後も普及所は高温対策を含めた栽培支援を行っていきます。

ブランド米「土佐天空の郷」の高収量を目指して



水田に入ってそれぞれ調査をしています

7月22、23日の2日間、本山町特産品ブランド化推進協議会では、協議会のメンバーや関係者21名が参加し、「土佐天空の郷」生産者36戸のほ場を巡回しました。

各地区ごとに、普及所と本山町農業公社が、水稻の草丈、葉色、幼穂長を調査し、その結果をもとに参加者全員で穂肥の時期や量を協議しました。

生産者からは「幼穂がもう見えゆう！」、「しっかり雑草防除できちゆうね。」と他の生産者のほ場を見て気になる部分について意見交換がされていました。

普及所は今後もブランド米としての品質を維持し、高収量を目指した支援をしていきます。

米ナスの可能性を再確認！

～米ナスフェア「食べ始めの会」開催～



米ナスを使った料理

J A 高知県れいほく園芸部主催の米ナスフェアが 8 月 1 日から 8 月 31 日まで行われるのに先立ち、7 月 20 日、高知市内のフランス料理店（フェア参加予定）に県や J A の関係者、園芸部役員、インフルエンサー等約 30 人が集まり、「食べ始めの会」が行われました。

参加者は、スープや肉料理、デザートなど米ナスを使った料理を堪能しました。米ナスが思いもよらない料理に変身し、みんな感心していました。

今年は米ナスフェア 20 周年を記念し、嶺北地域の飲食店 21 店舗も参加します。

米ナスを始め‘れいほく八菜’がますます発展し、中山間地の農家の救世主となるよう普及所も応援していきます。

日射量に応じた栽培管理で増収と快適化を目指して！



実証ハウス外観
(右：遮熱資材塗布)

夏秋栽培が中心の嶺北地域では、栽培期間の大半で園芸作物は過剰な日射量にさらされています。また、天候の変化により日射量が大きく変動し、生育に悪影響を与えています。

そこで、嶺北農業改良普及所では、定植初期からの遮熱資材塗布や外気導入等を組み合わせハウス内環境を適切に近づけるため実証を行っています。

現在のところ、晴天日のハウス内の温度を外気温よりも低くすることができており、生育も順調です。実証農家は「ハウス内が涼しくなり、作業環境がよくなった。植物の萎れも塗布していないハウスと違う。」と話しています。

普及所は、JA や地域の生産者と連携して、増収と作業環境の改善に繋がる技術の実証と普及を行っています。